

女子高校生競技者のイノベーション

—目標達成意欲に着目して—

山瀬 悠希(競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：イノベーション 目標達成意欲

1. はじめに

スポーツを行うことは、心身共に良いとされている。しかしながら近年、若年層の体力低下やスポーツ離れが問題となっている。

このことからスポーツ指導者は、こういった生徒に対し何らかの手立てを講ずる必要がある。また、その対象者が大きく変わっていくようなコーチングアプローチ法を多く具有していることが重要である。

本文では、競技者を劇的に変化させることをイノベーション¹と定義づけている。女子高校生の特性をもとに、目標達成までの過程でどのようなアプローチがイノベーションを引き起こすのかを見出した。

2. 研究方法

- ①文献調査：イノベーションについて等
- ②アンケート調査：対象者(兵庫県及び京都府下の運動部に所属している女子生徒 300名 回収率 69%)
- ③インタビュー調査：高校運動部指導者(教員 5名)

3. 結果と考察

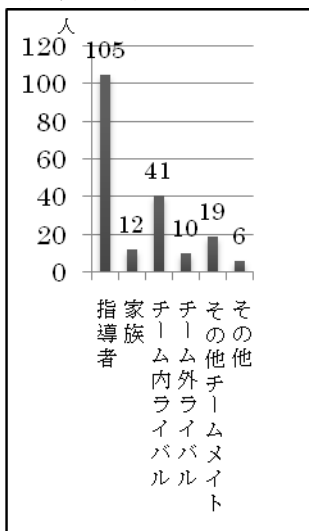


図1 影響を受けた人

女子高校生競技者自身が最も技術的に成長を自覚した時期は、何が原因となっているのかを検証した。図1は、そのイノベーション期に影響を受けた人は誰かを示している。その中で特出しているのは、指導者で次にチーム内ライ

バルである。指導者からは、「具体的な指導を受けたから」といった回答が多い。このような内的要因により、イノベ

ーションを起こしていることが判明した。具体的には「チームで協力したい」や「勝ちたい」等があげられている。

逆にイノベーションを起こしていない競技者は、指導者からではなく、チームメイトや家族からの影響が多い。このことは、女子高校生競技者にとって、いかに指導者の存在が大きいかを物語っている。したがって指導者が、コミュニケーションを多く取るということは、イノベーションには重要であるということが理解できる。コミュニケーションの取り方には工夫が必要で、日誌の交換が極めて有効的な手段となる。さらに指導者との話しやすい環境は、彼女達にとって必要不可欠なものである。その中で信頼関係をつくり、そこで初めて技術指導が有益となるといえる。

4. まとめ

女子高校生の大半は、第二次性徴期を迎え心身共に不安定な時期でもある。指導者は、彼女達の特徴を心得たうえで、図2に示した以下の4つのことからふまえたコーチングが、イノベーションを導き出す有効手段であることを見出した。

①指導者と女子高校生競技者の双方向のコミュニケーション②身近なライバルの設定③チームメイトとの協力体制(協調性)④学校生活内だけではなく、家族の支援が必要

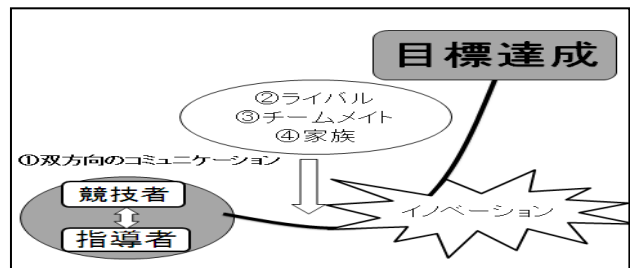


図2 目標達成までの過程

引用・参考文献

中野明(2010) ポケット図解 ピーター・ドラッカーの「イノベーション論」がわかる本

¹シュンペーターが、技術革新の意味で用いた。単なる量的増加ではなく、創造的破壊のこと。現代では、多くの場面にあてはめられる。